

「科学の芽」賞 シンポジウム

小中高校生の自然や科学への関心を育てようと筑波大学が主催する「朝永振一郎記念『科学の芽』賞」。その10周年を記念するシンポジウム「科学の芽を育てるために」(毎日新聞社後援)が6月29日、東京都文京区の同大東京キャンパス文京校舎で開かれました。テーマは「科学の芽を育てるために」。小学校、高校、大学の教員と受賞歴のある大学生が参加して、「芽の出た」子どもの伸ばし方について議論を深めました。【司会とまとめ、須藤晃】

パネリスト



筑波大学附属小学校教諭
鷺見辰美さん



青森県立名久井農業高校教諭
木村亨さん



筑波大学生命環境系准教授
澤村京一さん



筑波大学生命環境学群
生物資源学類 1年
佐々木愛さん

(2013年度受賞者、名久井農業高2年当時)

司会 「科学の芽」が出ているな」という子どもの芽をさらに伸ばすため、学校でどんな指導をしていますか。

鷺見 子どもは好奇心にあふれています。それを大人が拾ってあげないと、漠然と見るだけで終わってしまいます。子どもの好奇心を引き出すのが小学校教員の役割です。

木村 農業高校に入ってくる子は動物や自然に興味のある子どもたち。2年生から課題研究をしますが、将来の職業につくテーマを見つけるように指導します。

澤村 大学に入るまでは、答えのある問題を解いてきたでしょうが、大学では答えのない問題を論理的に解決していく能力が問われます。

司会 学生の立場から、どこで芽が出たと感じましたか。

佐々木 先生に何かしてもらったという感じはありません(笑)。農業高校の環境が良かったとは感じています。課題研究に取り組んだあたりから「芽が出た」と感じました。

司会 ご自身の子ども時代、科学に限らず「芽を伸ばしてもらったな」という体験はありますか。

鷺見 子どもは認められるとうれしいもの。私の小学校に放送局があった。自由研究が選ばれて放送されたのがうれしかった。先生には研究の内容は指導してもらいましたが、もう少し書き方を指導してほしかったなと思います。

木村 私が育った青森は自然がいっぱいだったので、遊びで昆虫採集をするような生活でした。父も教師だったので、忙しくて指導してもらった

澤村 昆虫少年でした。親には、ちよっと先輩の昆虫少年を紹介してもらったりのこの博物館に行くこんな情

鷺見 「先生も分からないんだよ」という子どもたちは盛り上がりま

澤村 先生が何でも分かったようにしていると感じています。

木村 何でも体験させることでしょ

澤村 見守ること。大人の側に見守るゆとりがない人が多いと思います。大人だって「不思議だな」と思う

鷺見 子どもたちはいろいろなものを集めます。例えばチョウやガの幼虫を見て、「汚い」とか「キヤア」とか言わないことです。「そんなもの捨ててきなさい」という一言が好奇心の芽を摘みます。

司会 「芽を育てる」ために保護者や社会の側がすることは何でしょうか。

鷺見 子どもたちはいろいろなものを集めます。例えばチョウやガの幼虫を見て、「汚い」とか「キヤア」とか言わないことです。「そんなもの捨ててきなさい」という一言が好奇心の芽を摘みます。

澤村 大人たちの課題が出てきましたね。最後にまとめをお願いします。

鷺見 子どもたちの好奇心をバックアップできるかどうか、芽を伸ばすポイントです。

木村 わが校の課題研究は2年生から始まるのですが、今年実験的に1年生の希望者も募りました。今、8人が参加しています。こうした環境を整えることだと思います。

澤村 大学は多様なテーマを提供します。本人が気づかないようなことも提供できる大学は研究者だけを育てているわけではありません。いろいろな分野で役立つことを教育する場です。

佐々木 先生方の話を聞いて、子どものころの体験が今につながっていることが分かりました。これからも自分の芽を伸ばしていきたいと思いました。

好奇心引き出し「芽」を育てよう

司会 「科学の芽」が出ているな」という子どもの芽をさらに伸ばすため、学校でどんな指導をしていますか。

鷺見 子どもは好奇心にあふれています。それを大人が拾ってあげないと、漠然と見るだけで終わってしまいます。子どもの好奇心を引き出すのが小学校教員の役割です。

木村 農業高校に入ってくる子は動物や自然に興味のある子どもたち。2年生から課題研究をしますが、将来の職業につくテーマを見つけるように指導します。

澤村 大学に入るまでは、答えのある問題を解いてきたでしょうが、大学では答えのない問題を論理的に解決していく能力が問われます。

司会 学生の立場から、どこで芽が出たと感じましたか。

佐々木 先生に何かしてもらったという感じはありません(笑)。農業高校の環境が良かったとは感じています。課題研究に取り組んだあたりから「芽が出た」と感じました。

司会 ご自身の子ども時代、科学に限らず「芽を伸ばしてもらったな」という体験はありますか。

鷺見 子どもは認められるとうれしいもの。私の小学校に放送局があった。自由研究が選ばれて放送されたのがうれしかった。先生には研究の内容は指導してもらいましたが、もう少し書き方を指導してほしかったなと思います。

木村 私が育った青森は自然がいっぱいだったので、遊びで昆虫採集をするような生活でした。父も教師だったので、忙しくて指導してもらった

澤村 昆虫少年でした。親には、ちよっと先輩の昆虫少年を紹介してもらったりのこの博物館に行くこんな情

鷺見 「先生も分からないんだよ」という子どもたちは盛り上がりま

澤村 先生が何でも分かったようにしていると感じています。

木村 何でも体験させることでしょ

澤村 見守ること。大人の側に見守るゆとりがない人が多いと思います。大人だって「不思議だな」と思う

鷺見 子どもたちはいろいろなものを集めます。例えばチョウやガの幼虫を見て、「汚い」とか「キヤア」とか言わないことです。「そんなもの捨ててきなさい」という一言が好奇心の芽を摘みます。

司会 「芽を育てる」ために保護者や社会の側がすることは何でしょうか。

鷺見 子どもたちはいろいろなものを集めます。例えばチョウやガの幼虫を見て、「汚い」とか「キヤア」とか言わないことです。「そんなもの捨ててきなさい」という一言が好奇心の芽を摘みます。

澤村 大人たちの課題が出てきましたね。最後にまとめをお願いします。

鷺見 子どもたちの好奇心をバックアップできるかどうか、芽を伸ばすポイントです。

木村 わが校の課題研究は2年生から始まるのですが、今年実験的に1年生の希望者も募りました。今、8人が参加しています。こうした環境を整えることだと思います。

澤村 大学は多様なテーマを提供します。本人が気づかないようなことも提供できる大学は研究者だけを育てているわけではありません。いろいろな分野で役立つことを教育する場です。

佐々木 先生方の話を聞いて、子どものころの体験が今につながっていることが分かりました。これからも自分の芽を伸ばしていきたいと思いました。

科学の芽 この賞の名称の由来は、筑波大学の前身の東京教育大学で学長を務めたノーベル物理学賞受賞者の朝永振一郎博士が、1974年に京都で開かれた湯川秀樹博士、江崎玲於奈博士との座談会で発言した言葉から引用しています。

ふしぎだなと思うこと これが科学の芽です
よく観察してたしかめ そして考えること これが科学の茎です
そして最後になぞがとける これが科学の花です

第10回「科学の芽」賞募集要項

応募資格 小学校3年～中学校、高校、中等教育学校、特別支援学校の個人または団体

審査方法 筑波大教員、同大付属学校教員、後援団体関係者が小学生部門、中学生部門、高校生部門ごとに審査

募集期間 8月20日～9月30日

提出方法 リポート用紙(A4判) 10枚以内(作品は返却しない)

結果発表 11月下旬、筑波大学ホームページに掲載予定

送り先 〒112-0012 東京都文京区大塚3の29の1 筑波大学「科学の芽」賞実行委員会